



No.13. 2021. 3. 19

学生たちとの4年間

5年前の秋、ある大学のS先生から「非常勤講師をお願いできないか」と打診がありました。私が大学の先生？私でいいの？自然保育に力を入れている大学の「環境の指導法」という授業の講師です。びっぴの保育を10年続けてきて、その大切さや可能性を発信していく役割があると感じ始めて「論文を書こう」と、ちょうど信州大学の研究生になって通い始めていた時でした。これから保育者や先生、お母さんになるかもしれない学生に伝えていくことは重要かもしれないと思いつき、受けることにいたしました。

返事をして間もなく、自然保育学会世話役の飲み会がありました。その席で私の学生時代の学生運動の話になり、語っていますと、突然S先生が「中澤先生は団塊の世代なのですか？？」と凄い声をあげました。定年退職になるような年齢とわかり、「大学で相談させてください！」。協議の結果、勤めさせて頂くことになり、笑い話のようなドタバタで幕を開けました。同時期に声がかかった長野県教育委員会には「私の年齢はご存知ですか」と一番に尋ねました。

毎年、ほやほやの1年生3クラス100人以上の学生たち。県外からの学生もいます。文科省の決まり事項は踏まえつつも、「自分で考える」「保育者が一番の環境」を意識した授業を考えました。授業は戸外でしたいとお願いし、幼稚園児たちが座するような椅子をお借りし、裏庭で行うことになりました。1クラス90分の授業の基本内容は、①絵本 ②皆さんの質問より保育を語る ③びっぴの子どもたちのエピソードからみる子どもの発達や捉え方や意味 ④本やプリントからの学び ⑤アクティビティで関わる・感じる・考える・自分と出会う…。

一日に授業3枠はへとへとになり、学生の皆さんに課した毎週のレポート提出は、読んでひと言書き込むのも大変でした。成績つけの試験はなくし、最終レポートの課題は

- ① 「子どもにとって、大切な保育環境とは何だと思いますか。授業で話したことをベースに、まとめてください」
- ② 「幼児教育を学ぶ中で、あなた自身の変化を述べてください」

「書く」という作業は、自分自身を客観視する時間にもなると思うので「書くこと」を大切に捉えていました。最終レポートは、読むのに少なくとも一人1時間以上かかり、自宅作業に賃金は発生しませんが、私のやる気を持続させたのは、毎週の授業を通しての学生たちの変化に嬉しさを感じ、子どもたちと向き合う大人を育てることは子どもたちを育てることと同じくらいに大切だと考え始めていたことです。

学生たちのレポートから、1年生とは思えない学びや気付きを感じました。

- ・子どもの世界を壊さないように、邪魔しないように、保育者が黙っていることもひとつの優しさであり、専門職としての援助だと思った。
- ・子どもたちが生き生きと遊び、その中での発見や気づき、友だちとの関わりを心地好いと感じられる体験、体験することができる環境、子どもの気持ちが尊重される環境の中で過ごすことができれば、子どもたちは自分を好きになることができるのではないかな。
- ・学んでいく中で、自分自身の変化は保育を好きになったこと、保育って面白い！保育って深い！と保育に対する考え方が変わったことです。
- ・「自分を好きになる」ことができるような保育をするにはどんな保育をしたら良いのだろうか、とずっと疑問のままです。でも、それを自分で解決する事ができたら、もっと自分が成長できるのかなと感じています。
- ・「環境の指導法」の授業を受ける中で、「自分の好きな本」「自分の願い」など、「自分」が大切なのだと気づきました。今まで、子ども子どもと、子どものことを真っ先に考えていたけれど、「自分」のことを考えた上で、子どもにどんな願いを持つか、子どもにどんな体験をしてほしいか、考えるべきなのだと思います。まずは、自分自身が「自分を好きになる」ことが必要だと思いました。
- ・Hくんの長靴のエピソード。「黙っていることの優しさ」を学びました。子どもたちが考えていることを想像することはとても大切なのだと思いました。
- ・子どもたちの前には多様な人、多様な考えが必要。だから保育者も主体が必要なのだと感じました。一人一人が「自分」を持って行動していかなければならないと感じました。
- ・子どもが経験したことをどのようにその子の成長に繋げていくのかを考えることも、保育者に求められる専門性の一つだとわかりました。
- ・保護者の方や周りの保育者とも連携を取りながら、子どもの成長と一緒に喜べる雰囲気や園全体を作り、子どもたちが伸び伸びと生活しながら自分というかけがえのない存在に気づけるような援助ができたら、私が理想とする笑顔が絶えない園になるのではないかと思います。
- ・私が思う「遊び」は、一生懸命になって取り組んでいたり、活動の中で様々なことを体験しながら心を満足させることだと思った。
- ・子どもたちは毎日の生活の中で、森の変化や豊かさを目で見て、耳で聞いて、実際に手で触れてみたり匂いを嗅いでみたりしながら楽しいことや危険なことを学んでいくため、子どもたちがやっている活動が危ないからといって止めるのではなく、保育者は子どもたちが怪我をしないように事前にハザードを確認し、前もって子どもたちを取り巻く環境をきちんと理解しておく必要があるということ学びました。
- ・子どもたちは帰宅すると家族に今日一日の思い出を話すだろう。子どもたちが一日を振り返るのと同じで、保育者も一日を振り返ることで日々成長していくのだと思いました。
- ・子どものために何を支援し何を見守るかのちょうどいい駆け引きも保育者としての日々の成長だと思います。
- ・子どもの目線にならないと本当の楽しさはわからないし、保育者が楽しまなければ子どもはついてこないと思いました。

- ・環境の指導法の授業を通して自分が体験したこと、感じたことがたくさんあるからこそ、その思いを忘れずに一人の保育者になりたい。
- ・環境は物だけでなく、保育者自身が環境であるのだと改めて気づきました。
- ・鳥の鳴き声や遠くで揺れる木の音、サーッと通り過ぎていく風を体感しながら生活しているのだと知って、贅沢な幼稚園だと感じました。
- ・「びっぴにはルールがないことがルール」という言葉がとても心に響きました。「固定されたルールを作るのではなく、その時の状況によってどうすればいいのか子どもたちと考える」を聞いた時に「心の余裕やゆとり」を感じました。
- ・「自然で育てる」というよりも「自然に育てる」という考えを忘れずにいたい。
- ・たくさんの絵本を読んでいただいたことで、その絵本が何を伝えたいのかという、絵本自体に願いが込められているとわかりました。
- ・自分を好きになるきっかけは、人の役に立てた時や話し合いで自分の意見をたくさん聞いてもらえた時と言われましたが、この2つに共通するのは、自分一人の世界では自分を好きになれないということだと思いました。誰かと関わる中で自分の良いところを知り、認められ、自己肯定感が育つのだと思いました。
- ・「安全管理、どこまで？」の「何がヒヤリで何がハットかもわからない保育者が何より一番危険だと思います」の記事。その度に考え直す必要があると思いました。
- ・子どものワクワクした気持ちを止めない流れを考えたい。
- ・アクティビティをして、自分の考えを価値感の違う相手に響く言葉と、相手に合わせた働きかけで伝えることも大切だと思った。
- ・自分の気持ちを人に伝え、関係を築き、様々な価値感を持つ人と協力することは生きることである。意見を言える関係性を自らの働きかけと温かな言葉で作出すことも大切だと学び、協力することの大切さを知り、自分の課題に気づき、成長しようと思えたことは大きな変化でした。本当の意味で保育と向き合う覚悟をもらいました。
- ・子どもに限らず、人を変えていくのが環境なのだ今回の課題を通して学ぶことができました。
- ・大人でも難しいことを子どもが受け入れることができるのは、生活する環境に子どもたち自身が自分で考えている選択があるからではないか。大人の都合、時間、スケジュールに縛られずに、心のままに生きることは常に自分自身と周りの環境に向き合って生きることなのだと思います。
- ・本当に子どもたちにとって必要な声掛けは短い言葉で十分な時が多いのだと思えた。
- ・決まった活動では生み出せない、日々変化する状況の中にこそ、人と共に生きる力が育つと思う。
- ・変化している子どもたちの周りの環境の中で、体験的に美しい世界を感じることで、多くの体験ができる保育活動は今の世の中ではとても大切だと思う。
- ・他者と出会うためにも自分と向き合える力が大切だと思う。
- ・思いをこめた絵本が子どもたちの心を満たし、育て、新しい世界への扉になればいい。
- ・自然の様子、周りの環境は日々変化している。先日は問題なかったこともリスクに変わる。

学生たちはどんな保育者・先生になってくれるのだろうか。教育の仕事を「教える、進める、論ず、裁くこと」と思っている人たちが少しでも減りますように、と願っています。そして、びっぴの子どもたちがどんな大人になっていくのかも、本当に楽しみ！

咲斗くん、春音ちゃん、遼くん、絃くん、隼人くん、蓮花ちゃん、茉莉ちゃん、翔々くん、円蔵くん、眞生ちゃん、ご卒園おめでとう！意見もいろいろ、やりたいこともいっぱいでもかを決めるのも大変だったね。面白いことを言いながらの話し合い、もめては考え合い、泣いて助けてもらって笑って怒って…いつも何が起るんだろうと思う、でもみんなで何とかするんだと感じ、そんなみんなを見ているのが幸せでした。それぞれの魔法の言葉を大切に、大きくなってね。

おおくりの保護者の皆さま、不安になったり骨休めしたくなったらいつでも、びっぴの森で充電してくださいね。たくさんのご協力に感謝！ありがとうございました。

一つ大きくなることを本当に楽しみにしているくりさん、まつぼっくりさん、どんぐりさん、いっぱい楽しいことを考えようね。私も楽しみ！4月8日木曜日、びっぴの森で待ってるね。

保護者の皆さま、今年度もありがとうございました。いつもたくさんのお支えを感じていました。子どもたちを真ん中に、笑い合ったり、考え合ったり…共に歩んで下さってありがとうございました。新しく始まる年度に、私たち大人も子どもたちに負けなくらいワクワクいたしましょう。好い春休みをお過ごしください。

：眞弓

森のみらくさ Sketchbook 巣立ち号

森のみらくさ Sketchbook 最終号とよりました。

毎月、びびの森や軽井沢周辺の森でみられる鳥の生きかたちを紹介してきました。

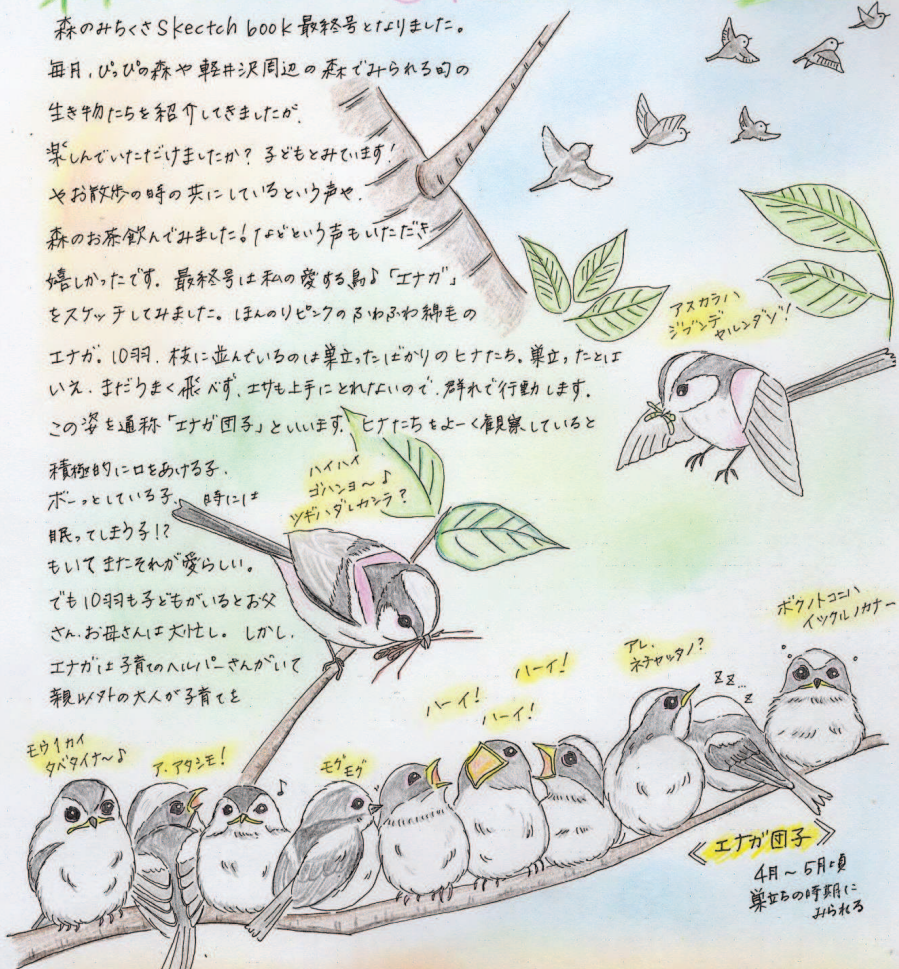
楽しんでいただけましたか？ 子どもとみえます！やお祭りの時の共にしているという声や、

森のお茶会へお誘い！「あ」という声もいたとき嬉しかったです。最終号は私の愛する鳥「エナガ」をスケッチしてみました。ほんのリビンのふわふわ綿毛の

エナガ。10羽、枝に並んでいるのは巣立ちばかりのヒナたち。巣立ちといえ、まだうまく飛ばず、エナガも上手にとれないので、群れで行動します。この姿を通称「エナガ団子」といいます。ヒナたちをよく観察していると

積極的に口をあける子、ポロっとしている子、時に「ハイハイ！ヨギ、タレカシラ？」

もいてまたそれが愛らしい。でも10羽も子どもがいるとお父さん、お母さんは大忙し。しかし、エナガは子育てのハルビさんかいて親以外の大人が子育てを



手伝ってくれます。ふたつとるも森がエナガを好きで理由です。(びびみらい！?) このエナガ団子は巣立ちから数日しかみることができません。やがて、かわいいヒナたちはエナガと、大喧嘩と巣立っていきまふ。びびの子ともたちもびびの森でおし合い、おし合い、笑ったり泣いたり、いろんなことがあったでしょうね。おおくり10人の子ともたちも、お母さん、お父さんたちもこの世界へ飛び立つ時!! 今までありがとう!

また会える日を楽しみにしています。

そして、びびの皆々様。一年間ありがとうございました!

菜々鳥